

選択的夫婦別姓について

2021年11月27日 一般質問

大村洋子 質問

引き続きまして、夫婦別姓のところを伺いたいと思います。

市長は、かつて議員時代に地域で支える条例というのをおつくりになって、午前中の質疑でもそういった質疑がありました。正当な地域ナショナリズムを喚起し、家族が地域の中でともに暮らし、支え合う当たり前の理念、このためにこれを再構築するためにこの条例をつくったということです。

それで、3世代で暮らすことを奨励されていたことがあるのですが、改めて今一人一人が個人が自分の生きざまというか、自由になっている状況があります。そういう中で、家族で暮らすということをあえて奨励されるということで、市長の家族観、あるいは親子観、夫婦観、そういうのを少し展開して教えていただけますか。

上地市長 答弁

個人的な話にまで言及せざるを得なくなっちゃうのですが、今でも3世代で住むのが私はベストだというふうに思っています。人が自由と言いながらも、3世代で暮らすことということが非常に重要だというふうに理解をしております。

それはおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に暮らすということが生きていく上でどういうことなのかという、人は生まれ、死ぬという一つのスパンの中で、あらゆる状況を自分の目で見るという意味では家族というのは絶対必要で、愛情や慈しみ合うなどという最小限の単位が家族であるというふうに思っています。自由といえども、できる限り3世代で住むということが私は人としてベストではないかというふうに今でも思っています。

大村洋子 質問

その上で伺いたいのは、選択的夫婦別姓なのですが、これは皆さんが別姓でやるべきだというふうに言っているわけでは決してなくて、やりたい人はやる。そして、同じ氏がいいという人は、同じ氏でももちろんいい。選ぶことができるということが私は大事ではないかな。世界でただ一国だけ、日本だけが統一した氏なのです。ですから、世界から見ても少し奇異なところがあるのではないかと考えているのですが、もう一回この夫婦別姓について、市長のお考えをお聞かせください。

上地市長 答弁

世界がどうであろうがどうでもいいことだと基本的には私は思っています。

これは個人的にはある考えを持っているのですが、今ここで開陳するつもりはありませんけれども、ただ具体的に言うと、産まれたお子さんがどちらを取るかという選択しなければいけないといったときに関しては、非常に難しい問題が生じるのではないかというふうに機能的には思っています。もちろん個人的にはある考えを持っているのですが、それは今ここでは開陳するべきではないと思うし、これは国民的な議論の中でやっていけばいいというふうに思っています。

大村洋子質問

今回選択的夫婦別姓を取り上げたというのは、ジェンダーが日本の中ではまだまだ遅れている問題、ジェンダーというのは社会的な性差ですけども、それがまだまだあるのではないかというふうに思っています。それでスイスのシンクタンクで世界経済フォーラムというところがジェンダーギャップというのを発表していて、153 か国中、日本は 121 位なのです。これだけ経済発展しているのに、ジェンダーのギャップが下から数えたほうが早いような順位になっている。しかもその中で特に私は注意して見たのは経済なのです。男と女で所得の格差があり過ぎる。管理職が少ない。そして、専門職も少ない。国会議員は女性の議員の比率も低い。

今コロナで警察庁の女性の自殺者の統計を見た場合に、2019 年の 10 月、466 人だったのが今年の 10 月、851 人なのです。1.82 倍になっている。これはいろいろな理由があると思うのですが、男性より女性のほうがずっと自殺の率が高くなっているのです。私これは非正規雇用による減収、あるいは雇用を解消された首切り、そういうものが背景にあるのではないかなというふうに深刻に見ているのです。

そういう今の日本の状況が一概に全部言えません。だけれども、氏を統一することによってこだわりを持っている日本の文化、これも一つ問題ではないかなと思うのです。いかがでしょうか。

上地市長 答弁

私は、経済的格差というのも一つの理由だと思いますけれども、私は基本的に宗教的情操を失った日本人だと思っているのです。これはアングロサクソンとの物語が始まるのだけれども、先ほど言った家族主義や、日本古来の生き方と日本人など、宗教的情操というか、第一に不安があったというか、生きていくことはどういうことであるなど、そういうことが根本にあるならば、差別も起こらないし、こういうようなことも行われないうふうに私は思っていて、夫婦別姓というのは、選択制というのは、私は宗教的な情操だというふうにDNAという問題だけではなくて、根源的に思っております。

ですから、経済的な理由だけではない問題がそこに大きく潜んでいるという、人

間として、あるいは日本人としてどういう生き方なのかというふうに、根源的な問題だと思っていますので、軽々に話をすることは私はできないと思っている。個人の問題、ただこれは国民的議論の下に大きく本質的な問題にまで波及をして、考え直していかなければいけないものだというふうには理解しています。

大村洋子 質問

ジェンダーについての市長のお考えをかいま見た思いがしました。この問題は非常に根深いというか、しっかり深めていかなければならない問題なので、今日はこれだけをやっているわけにはいきませんので、また次回の宿題にしたいと思います。